

検証・浦和電車区事件の真実 No.35

民主化闘争情報 [号外] 2008 年 7 月 23 日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合)

第 35 回 歪んだ考え方を徹底的にぶっ壊してやる！

2001 年 6 月 1 日、大淵被告は、内勤室にやって来て、昼休みの休憩中であった Y 氏（当該事件被害者）の隣に迫り、罵詈雑言を浴びせて激しく脅迫した。

大淵が Y 氏を激しく面罵する！

大淵は「何でこうなってんの！」と因縁をつけた。Y 氏が「何でこうなるって...」と困惑して答えようとする、「おまえ、でかい面するんじゃないか、この野郎！」「何だ、その言い方は！誰に言ってんだ！何様だと思ってるんだ！」と怒鳴った。そして、間断なく Y 氏に罵詈雑言を浴びせ続けたのである。

「組合に対して何もしないのか。夏のボーナス交渉してるけどよ、あれだってもらえるんだぞ！」「おまえ、乗務員だろう。身体の具合が悪いとかなら分かるが、おまえの場合、違うじゃないか！」「俺らがな、周りの人間がそういう環境をつくった訳じゃないだろう！すべての原因はおまえにあるんだぞ！」

「おまえ、それでいられると思ってんのか！ふざけるな！周りの人間にはガードする人もいるからよ、そういう関係の中にいりゃ、区長や副区長からガードされて、何となくいられると思ってんだろ、おまえ！」

「この野郎、おりゃ、大体、ここにいること自体がおかしいんだよ！いること自体が頭にくんだよ！お前がここに残ってるってことはよう、許さないよ絶対！」

「おまえのその歪んでいる考え方を徹底的にぶっ壊してやるからよ！」「まるっきりなっねえな、一人の人間としてよお！」

あまりにも程度の低い暴言は評価にも値しないが、「なっていない」のはどちらなのか。この日の糾弾は、大淵の勤務の都合から 15 分程度で終わった。大淵はこの間、ひたすら悪態をついて出て行った。休憩時間とはいえ、周囲の管理者に、脅しを止めようとする気配はなかった。

Y 氏は、あらためて、JR 東労組が自分を退職に追い込むつもりだと確信した。内勤室でもひどい脅しを受けているのに、乗務をすれば、どのような仕打ちをうけるか、想像するだけでも怖かった。とても運転はできないと思った。

日勤を続ける理由を提出せよ

こうした中、6 月 5 日、Y 氏は浦和電車区 I 区長から「日勤業務を続けなければならない理由を文書にして提出してくれ」と言われた。会社が、Y 氏を運転業務に戻そうとしていることは明らかだった。Y 氏は「精神的に不安定な状態にあり、今後の精神状態をみて運転業務に復帰するという方向で考えているので、6 月末まで日勤業務を続けさせていただきたい」という書面を提出した。しかし本心では、とても運転業務に復帰する自信はなかった。（次号に続く）